

第 104 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録

I. 日 時：2023 年 6 月 2 日（金）13 時 30 分～15 時 20 分

II. 場 所：WEB 会議

III. 出席者：（委員 19 名中、出席者 18 名（代理出席 1 名含む）、欠席者 1 名）

（敬称略）藤田（三菱重工業）、三好（川崎重工業）、飯田（東電 HD）、
佐藤（発電技検）、長谷川（日鉄テクノロジー）、三原（東北大）、天野（早大）、
岡（富士電機）、松田（HSB ジャパン）、木村（東芝 ESS）張（電中研）、
山本（関西電力）、早川（NIMS）、添木（大口自家発）、三沢（電源開発）、関根（IHI）、
櫻井（日本電気協会）

代理者：村松（堀内委員（火原協）代理）

欠席者：鈴木（JERA）

常時参加者：【欠席】鎌田（経産省）

オブザーバ：鈴木（三菱重工業）、伊藤（IHI）、富永（三菱重工業）

事務局：中村

IV. 配付資料

- 104-1 第103回火力専門委員会議事録（案）
- 104-2 専門委員会・分科会委員案
- 104-3 第105回規格委員会議事録（案）
- 104-4-1 材料分科会報告
- 104-4-2 構造分科会報告
- 104-4-3 溶接分科会報告
- 104-5 各分科会審議履歴表
- 104-6 日本規格協会圧力容器技術委員会委員派遣依頼書
- 104-7 書面投票No.574の意見対応・回答
- 104-8 J火SUS304J1HTB検討依頼に対する回答
- 104-9 材料専門委員会検討依頼書(案)
- 104-10-1 202X 年版改訂案_圧力容器（審議経緯）
- 104-10-2 火専書面投票提案資料（4 章圧力容器）
- 104-10-3 新旧対比表_202X 年版 4 章圧力容器（目次～UG）

V. 議事

1. 前回議事録確認 [104-1]
前回第 103 回（3/1）議事録（案）の確認を行い、議事録案は承認された。

2. 専門委員会、分科会の委員・役員承認 [104-2]
（1）火力専門委員会委員の推薦承認
以下の再任委員候補が報告され、出席委員全員の賛成により再任委員候補を規格委員会に推薦することが承認された。

- ・火力専門委員会： （新任） な し
（退任） な し
（再任） 松田委員

(2) 分科会委員・役員の承認

各分科会の以下の退任、新任、再任候補が報告され、出席委員全員の賛成により新任、再任候補が承認された。

- ・材料分科会： （新任） 柴田氏
（退任） 岩渕委員
（再任） 西川委員
- ・構造分科会： （新任） なし
（退任） なし
（再任） なし
- ・溶接分科会： （新任） なし
（退任） なし
（再任） 岩井副主査
- ・配管減肉分科会 （新任） 藤関氏
（退任） 阪本委員
（再任） なし

3. 報告事項

(1) 発電用設備規格委員会報告

[104-3]

第 105 回規格委員会（3/9WEB 開催）の議事内容のうち、火力及び委員会運営に関連する内容が報告された。

○ 発電用火力設備規格に関する審議

- ・詳細規定 第 VI 章 非破壊検査、第 VII 章 溶接施工法・溶接技量について誤記調査結果に基づく修正提案に関する規格委書面投票 No.587 の意見対応案の説明が行われ、意見対応案が修正案として承認された。

○ 火力専門委員会報告（6/2WEB 開催）

(2) 分科会報告

1) 材料分科会報告

[104-4-1]

伊藤材料分科会主査から以下の報告があった。

- ・再任候補及び新任候補についてメール審議を行った。
- ・火力専門委員会から材料専門委員会に依頼した J 火 SUS304J1HTB の許容応力値及びクリープ強度評価についての材料専門委員会の検討結果を分科会委員で共有した。
- ・書面投票 No.574（書面投票 No.523 意見対応による修正案）意見対応は、電事連を主体とした Gr.91 系鋼の許容応力見直し検討状況を鑑みて、ASME 規格材の許容応力見

直しを国内材の許容応力見直し結果を反映するタイミングで行うことが、両者整合性の観点から望ましいと判断し、本書面投票による修正案を取り下げる方針が分科会内メール審議及び火力専門委員会三役を通じて了承された。書面投票の取り下げを意見者に回答し、意見者より了承を得た。

- 火 SUS304J1HTB 鋼の許容引張応力見直し対応として、海外材と国内材に許容応力値に差がある材料専門委員会の報告内容を、そのまま詳細規定 第Ⅱ章に取り入れることは規格として適切ではないと考え、材料専門委員会のタスクで検討している火 SUS304J1HTB の材料仕様の見直しの検討結果がまとまるまでは、現状のままにしておくという方針を分科会内のメール審議で確認した。
- Alloy141 事例規格案について火力専門委員会書面投票開始に向けて準備継続中。
- 次回開催は未定、実施は WEB

2) 構造分科会報告

[104-4-2] [104-5]

飯田構造分科会主査から第 120 回分科会（5/12 WEB）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

○ 詳細規定第Ⅳ章 圧力容器レビュー票及び新旧対比表審議

- レビュー票、新旧対比表について、前回分科会及び分科会後のメールでのコメント反映を確認した。また、委員のからの追加のコメントメールのうち、直近の5月のコメント分（UG-125～140）について未反映であるため、分科会後に内容を三役にて確認することとした。
- レビュー票審議は計算例の一部（UHX-20.2～20.3）を除き全て終了した。これらの計算例については三役一任とし、担当者作成後、三役にて確認することとした。
- 詳細規定第Ⅳ章 圧力容器 は、計算例を除きレビュー票での改訂の審議が終了したことから、計算例および新旧対比表への反映については三役にて確認を行うこととし、6/2 の火力専門委員会に第Ⅳ章圧力容器の改訂提案を行うこととした。

○ 次回開催予定は 2023 年8月8日（火）

3) 溶接分科会報告

[104-4-3]

鈴木溶接分科会主査から再任委員候補の火力専門委員会への推薦のメール審議を行ったことが報告された。次回開催は未定。

(3) 日本規格協会圧力容器技術委員会（JIS 原案作成）委員派遣報告規格委員派遣報告

[104-6]

日本規格協会より、圧力容器技術委員会への火力専門委員会・飯田幹事の委員派遣依頼があり、機械学会企画理事会にて承認されたことが報告された。

4. 審議事項

- (1) 規格委投票 No.574（発電用火力設備規格 詳細規定第Ⅱ章材料 改訂案（ASME Gr.91 系鋼改訂取入等）の規格委員会書面投票 No.523 の意見対応による修正案）の意見対応

[104-7]

伊藤材料分科会主査から、規格委投票 No.574 の規格委 高橋副委員長への意見対応について説明がされ、高橋副委員長の「ASME 材と国内材との許容応力に差が生じる改訂案

に対して賛成できない」旨の意見に対し、分科会内部での審議を踏まえ取り下げを行うこととした。

(2) 材料専門委員会のJ火 SUS304J1HTB 評価結果への対応 【104-8、9】

材料専門委員会の報告（3/9）結果では、海外材と国内材で材料仕様は同じであるが、許容応力値に差があり、現状では国内材のみを許容引張応力表に取り込む合理的な説明ができないため、材料仕様（化学成分、熱処理温度など）により許容応力を規定する案を検討いただくことを、材料専門委員会に依頼することとした。

（会議中のコメントを反映した依頼書の改訂版は、6/5 に火力専門委員長から材料専門委員長宛に送信済。依頼書は会議資料に登録済）

(3) 発電用火力設備規格 詳細規定第Ⅳ章圧力容器 改訂案の書面投票実施について

【104-10-1～3】

今回の改訂の主な内容は、参照規格年版の変更、SI 単位系の取入れ、表現の見直し・誤記修正などである。この第Ⅳ章圧力容器改訂案の書面投票開始の提案が行われ、賛成多数で承認された。書面投票は、準備中の新旧対比表の資料が揃い次第、開始する。最短のスケジュールでは、次回の火専にて改訂案を承認、9月の規格委員会にて改訂提案、12月の規格委員会にて承認となる。

また、次回改訂時の検討事項として、Ⅳ章の内容のうちⅢ章とほぼ同等な部分は省略（Ⅲ章参照）するなど、改訂作業の効率化について取り組んだ方が良いとの意見があった。

Ⅵ. 次回開催予定

日 時：2023 年9月 1 日（金） 13:30～17:00

場 所：Web もしくはハイブリッド方式

以 上